

自然観察ガイド養成研修会の参加者

環境企画課環境保全係
☎22・7441
FAX 22・1286
E-mail: kankyokikaku@city.waki.jp
i.waki.jp
プロ・ナチュラリストの佐々木洋さんを招き、植物や生き物の観察方法などを学びます。

日 8月27日(土)、9月3日(土)・17日(土)、10月23日(日)、11月5日(土) (全5回)
所 交流スペース(勿来)
対 自然環境などに関心のある18歳以上で、全日程に参加できる方
定 15人(応募多数時抽選)
申 同課に備え付けの申込書(市ホームページからも入手可)に必要事項を記入し、〒970-1868 環境

お知らせ

本市就職者に奨学金返還の一部を補助

教育政策課総務係 ☎22-7540

対 次の要件を全て満たす方 ①大学、大学院、短大、高専、専修学校(修業年限2年以上の専門課程)、いわきコンピュータ・カレッジのいずれかに在学中で、本年度に修業年限以内で卒業・修了予定 ②日本学生支援機構第一種奨学金・第二種奨学金、市奨学金、県奨学金、いわきコンピュータ・カレッジ奨学金のいずれかの貸与を受けている ③卒業・修了の翌月1日から起算して、6カ月以内に市内事業所等に正規職員などで就職を予定 ④卒業・修了後、市内に定住することを予定

補/定 大学などに在学中、貸与を受けた奨学金の2分の1(上限153万6千円)/19人程度

申 同課、各支所・市民サービスセンターなどに備え付けの申請書に記入し、必要書類を添えて、〒970-8026 平字堂根町4-8 教育政策課へ(直接持参も可)

期 8月31日(水)消印有効



相談

住まいの復興給付金申請相談会

住まいの復興給付金事務局
局コールセンター ☎120・250・460
日 9月9日(金) 10時30分～15時30分
対 東日本大震災で住宅に被害を受けた方
所 市役所本庁舎1階



保健

蚊が原因の感染症に注意を

保健所総務課感染症対策係 ☎27・8595
病原体を持つ蚊に刺されると、発熱や関節痛、発疹

食中毒に注意しましょう

～8月は「食品衛生月間」です～
手洗いや衛生的な食品の管理を心掛けましょう



お知らせ

企画課へ(直接持参・FAX可)

計量モニター
計量検査所 ☎23・4695
対 市内に居住し、食料品を販売している商店などの関係者でない方
任 10月7日～12月6日
定 15人(応募多数時抽選)
申 ハガキに「計量モニター応募」と明記の上、住所・氏名・生年月日・電話番号・勤務先または職業を記

お知らせ

市有地を一般競争入札で売却

施設マネジメント課資産活用係 ☎22-7421

物件所在地	地積	最低入札価格
平谷川瀬一丁目1番6、1番10	812.60㎡	5,529万8千円
内郷御台境町前田16番3	315.39㎡	1,236万3千円
南台四丁目3番24、3番25	297.21㎡	152万9千円

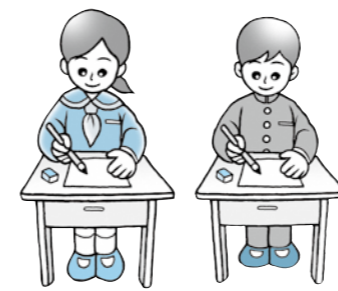
対 市民および市内事業者
日 9月8日(木) 15時
申 同課で
期 8月2日(火)～31日(水)
※申し込み方法など詳しくは、同課へお問い合わせください。

入し、〒970-8026 平字菱川町5-12 計量検査所へ

自衛官など
自衛隊いわき地域事務所 ☎25・8932
期 8月31日(水)消印有効



防衛医科大学の学生
期 ①看護学科(1次) 10月15日(土) ②医学科(1次) 10月22日(土) ③一般(1次) 11月5日(土)・6日(日)
対 ① 18歳以上33歳未満の方 ② 高校卒業または卒業見込みで、来年4月1日現在18歳以上で、航空要員は21歳未満、海上要員は23歳未満の方
期 ① 9月5日(月) ② 9月8日(木)



日(木) 18日(日)のいずれか1日
期 ② 航空学生 9月19日(月)



時 13時15分～16時30分
申 事前に同課へ ☎か窓口で
○ひきこもりおよび発達障がい専門相談
日 8月31日(水) 13時～16時
申 事前に同課へ ☎か窓口で
○案内(共通)
所 総合保健福祉センター

農地パトロール強化月間

農業委員会事務局農地調査係 ☎22-7574
農地利用の最適化を図るため、遊休農地の実態把握と発生防止などを目的に、11月までを農地パトロール強化月間とし、現地調査を行っています。
調査の際、農業委員や農地利用最適化推進委員が農地に立ち入ることがありますので、協力をお願いします。

公演チケット発売開始のお知らせ

アリオス主催・共催

アリオスチケットセンター ☎22-5800

公演名	とき	料金	予約開始
「音楽の隠れ家inいわき2022」大塚直哉チェンバロ・コンサート	10/1(土) 18時30分～	自由席=1,000円、高校生以下=500円 ※3歳以下膝上鑑賞無料。	8/19(金) 10時～
パルコ・プロデュース2022「凍える」	10/30(日) 13時30分～	S席=9,000円、A席=7,000円、25歳以下=3,000円	8/27(土) 10時～
ウクライナ国立バレエ「ドン・キホーテ」	12/23(金) 18時30分～	S席=9,000円、A席=7,000円、B席=5,500円、C席=4,000円	9/14(水) 10時～

▶購入方法 ①電話予約 ②インターネット予約 ③窓口販売(発売2日目から取り扱い)



アルプスアルパイン(株) HANAプロジェクトの皆さん (前列左から飛田さん深谷さん霜山さん、後列左から岩倉さん金森さん金野さん) 2016年の女性活躍推進法施行後、女性目線で働きやすい職場環境を整備することを目的に社内で結成。

リレートーク

“生き生きと健康に自分らしく”をサポートしたい



Q 活動内容を教えてください。
ワーク・ライフ・バランスやキャリアアップ、会社風土などについて、社員一人一人が真剣に考えるきっかけを作るため、社内を中心に情報発信をしています。
昨年と今年の6月には、国の男女共同参画週間に合わせて、男女の性差による健康問題の理解促進を目的としたイベントをいわき市と共同開催しました。社内に留まらず地域社会への貢献も視野に入れた、幅広い活動も展開中です。
Q 今を生き生きと過ごすために私たちができる心掛けはありますか。
「男性は仕事、女性は家庭」といったかつての価値観は薄れてきていますが、いまだに男女の差は大きいと感じます。価値観だけではなく

身体的な差は特に大きく、女性には生理や更年期に代表される女性特有の健康課題があります。
それらをオープンに話すことは長い間タブー視され、それ故に、多くの女性が活動を制約され、悩みを抱えてきました。周りの人と生理の話ができ、自分の体や生理の知識があつたら違っていたよね、という話になることもあります。女性の皆さんには、普段から自分の体と心に向き合って、自分を大切にすることを優先してほしいです。
そして、女性だけでなく、社会全体が女性特有の健康課題について理解し、環境を整えていくことも重要だと思っています。
このような活動は理解浸透に長い時間が掛かるものと考えています。



健康課題をテクノロジーで解決する商品を展示したフェムテック・メンテックフェア

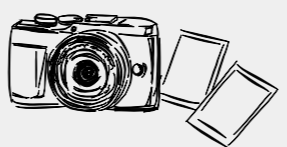
自らアクションを起こすことは勇気が要り、互いの支えになっていきます。
Q 今後の抱負を教えてください。
今年2月の第21回いわきビジネスプランコンテストで、最優秀賞を受賞した事業プランの実現に向けた準備をしています。
女性特有の健康課題や、妊娠・出産などの女性特有のライフステージにおける悩み・不安を解消するための取り組みを市内で行うため、会社の副業制度を活用し、新たに団体を立ち上げ、社会・地域に少しでも貢献していきたいと思っています。
一緒に活動を盛り上げてくださる方や応援してくださる方がいらっしやいましたら、連絡いただけると嬉しいです。



社内で実施した子育てと仕事の両立に関する座談会

活動に興味がある方や各種お問い合わせは、下記までご連絡ください。
☎0246-36-4111 (ブランドビジネス事業推進室・深谷さん) または
✉apn_hanapro@apn.alpine.co.jp

写真が語る「いわき」の歴史



田園風景と暮らし

左の写真は昭和30年代に撮られたものです。一面の稲穂の間を歩く人の姿が写真を引き立てています。何よりもどこか秋風がそよいでいるのを感じる



内郷市高坂町・御厩町の風景 [昭和30年代 板井文男氏撮影]

風景や街の様子、人々の暮らしなどを撮った数多くの写真から、いわきの多彩な歴史・文化・移り変わりなどをひもときます。

その他にも、遠方には三角の山、常磐炭礦内郷礦住吉坑のずり山が見えます。坑内から掘り出された石炭とともに出た土砂や岩石を積み上げた人工の山をそう呼んでいました。視線を下に移すと、中腹には建物が、麓には常磐線を走る旅客列車が見えます。これより手前は見渡す限りの田んぼで内郷市高坂町・御厩町(現在の内郷高坂町・御厩町) 辺りです。

撮影場所は高い場所のようですが、さて、どのような場所だったのでしょうか。今、この辺りの高台から見ると見渡す限りに家屋が立すいて、田んぼは全て姿を消したことが分かります。写真の中の大人や子どもはイナゴ取りをしているのでしょうか。大人になった当時の子どもたちは、このことを記憶しているでしょうか。半世紀にわたる歳月の移ろいは風景を変え、生活を変えていきました。(いわき地域学舎 小宅幸一)

※いわき市内の昔の写真をお持ちで提供いただける方は、広報広聴課 (☎22-7402) へご連絡ください。

市長です こんにちは⑧

ウクライナ人留学生との対話



いわき市長 内田 広之

先日、東日本国際大学へ留学したウクライナ人学生4人が、市役所にお越しくださいました。
お話を伺いますと、元々、日本文化に関心があつて、日本の大学への留学を検討中、教職員がとても親切で、かつ豊富な教育プログラムと支援体制を用意する同大学を選んだとのこと。
皆さん、英語が堪能でした。このような時、必ず私は英語で話すことにしています。私は超いわき弁なまりの英語なので…(笑)、外国

で勤務したときも、同僚に話が通じないことも多く困りました。しかし、中国人もインド人も、一様にそれほど流ちょうではない英語でガンガン会話をし、仕事でも交渉してきます。日本人だと「自分は下手だから…」となりそうですが、そうした外国人の姿勢を見習いたいものです。そして実際、共通言語だと不思議と心も通じ合うものですね。

この度、いわき市からは避難留学生に支援金を用意しましたが、今後の生活やさらなるウクライナ人の受け入れの中で、いろいろな課題が新たに出てくるのが想定されます。共通言語の英語も駆使しながら、市役所も支援のために寄り添っていく覚悟です。

